



レオNEWS Vol.6

平成 20 年 10 月 1 日 発行

発行責任者：鈴木玲央

討議資料

ごあいさつ

秋の装いを見せ始めた今日この頃、8月は各地にて盛大に夏祭りが開催されておりました。

さて、9月8日10月10日まで第3回市議会定例会議が開催されております。

第2回市議会本会議、第3回市議会本会議にて、医療体制を中心に一般質問を行いました。

第2回 市議会定例会議 一般質問

都立八王子小児病院について

都立八王子小児病院については、存続についての署名運動が行われるなど運動が活発ですが、現状において存続が可能なのか、また都立八王子小児病院に代わる体制についての提案を中心に行いました。



Q1、都立八王子小児病院を存続させる方法並びに、その可能性についてどうなのか？

都立八王子小児病院は、既に府中に小児総合医療センターが出来ている現状から、東京都が継続して運営をすることはしない。例えば八王子が運営するとしたら、年間11億1千5百万円の税金を投入する必要があるので運営をするのは厳しい。しかし、継続できたとしても、社会的な医師不足もあり、本市で小児病院を継続運営することは極めて困難な状況にある。

Q2、府中に出来る小児総合医療センターとの連携を考えた広域医療体制の確立は考えているのか？

小児総合医療センターにより、都立八王子小児病院の課題であった周産期医療の問題をクリアし、病床も561床となり安心して出産できる体制を多摩地域全体で構成することが出来る。また、八王子市としても小児総合医療センターからの医師派遣を絶対条件とし、ドクターカーを2台、府中の小児総合医療センターへの配置を行うよう協議を積極的に進めている。また、中核病院への小児ベッド増床に向けての協議も行っており、中核病院からは概ね合意を頂くまでになって来ている。

Q3、医療体制の水準維持として提案するが、都立八王子小児病院の跡地について、地元医師会と協力しながら、総合救急診療所の設置が出来ないか？

現在、平岡町の保健センターにある夜間救急診療所の跡地への設置は大変有用であると考えられるので、今後、地元医師会と協力し、設置の方向で進めて行きたいと思う。また、現在跡地には、小児外来が出来る障害児施設の誘致も考えている為、その施設と連携して八王子市の救急医療、小児医療の中心となるような体制整備を進めていく。

Point

- ・ 八王子単独の医療体制は現実的に無理なので、都内の病院と連携した体制を構築する
- ・ 小児病院を現在継続しても、医師不足により将来的には閉鎖しなければならなくなる
- ・ 跡地に、総合診療所（夜間救急診療所）を設置し、小児外来が出来る障害児支援施設を誘致する
- ・ 総合診療所が出来ることにより、中核病院の本来の役割が果たせる
- ・ 府中小児総合医療センターは多摩地域初となる高度専門医療機関となる

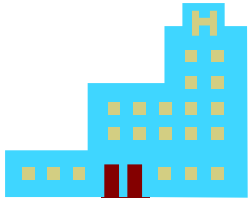
現在の医療体制



発症

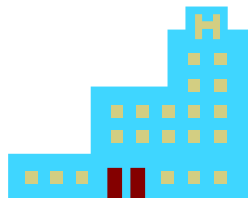
自分達で受診する
病院を選択

中核病院



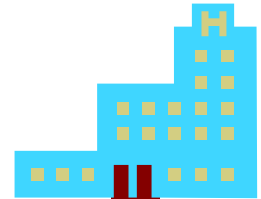
- ・ 小児救急を日にちで分担
- ・ 1次救急が多く、2次救急の機能が果たせていない

都立八王子小児病院



- ・ 都立病院再編に伴い統合
- ・ 産科が無い為、周産期医療が行えない

夜間救急診療所
(保健センター内)

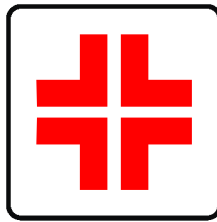


- ・ 施設が老朽化
- ・ 初期救急の機能があるにも関わらず、発揮しきれていない

移設を提案

提案した医療体制

発症

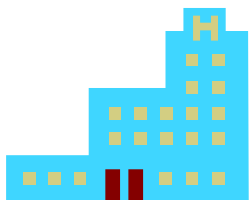


総合救急診療所(小児病院跡地)での夜間救急

- ・ 日にちの制限無く救急対応
- ・ 準夜間救急診療部門を保健センターから移設することにより地元医師が診察
- ・ 確実な初診を行える医療機関の設置が可能

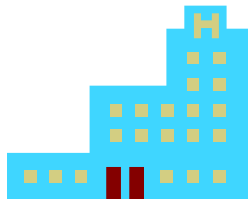
初診による救急トリアージ(症状による適切な医療機関への選別)

かかりつけ医及び診療所



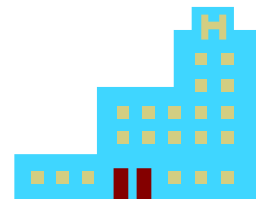
- ・ 軽症症例を早期に選別し、治療を行う
- ・ 自宅に早くに戻れる為、子どもの負担を軽減出来る

中核病院



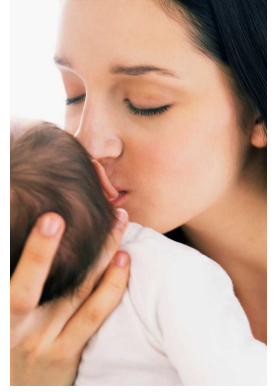
- ・ 2次救急としての機能に集中
- ・ 2次患者へのスムーズな診察、救急医の負担軽減により入院患者への対応がより充実させることが可能

小児総合医療センター(府中)



- ・ 重症患者への即時対応
- ・ 周産期施設の為、異常分娩においても母子同伴にて対応可能

第3回 市議会定例会議 一般質問



産科医療への支援について

現在、八王子の産科医療体制は、年間約 4000 人の出生があるにも関わらず、分娩施設が中核病院 2 施設、診療所 5 施設、助産院 2 施設の計 9 施設しかなく、妊産婦だけでなく、現場の医師、看護師、そして助産師の方はかなりの負担を強いられおり、その現状を改善する為に、提案を含め質疑を行いました。

Q1、産科医療は、分娩施設数の減少や、医師の高齢化、助産院の制度変更などにより疲弊してきており、既に八王子の産科医療は崩壊しているとの声もあるが、八王子市として今までに具体的な支援策などは試みられてきたのか？

本市として、産科医療が分娩施設の現象などにより疲弊している状況は認識しているが、具体的な支援策は、現状、行っていない。

Q2、産科への支援策として、市立八王子看護専門学校に助産師課程の新設や開業医の誘致条例の制定など、本市にて具体的な支援策の構築を提案するが、市としてはどのように考えているのか？

市立八王子看護専門学校に助産師課程を新設や開業医の誘致に関しては、一朝一夕に出来る問題ではないが、国の支援策の状況を踏まえながら、今後、課題として研究していく。

Q3、産科医療の現状は厳しく、早急に対応策を行う必要があるが、八王子市として、今後の支援策の構築についてどのように考えているのか？

産科医療は、医師不足や訴訟リスクの高さにより大変、厳しい現状に置かれている。医療体制の基盤整備は国が基本としているが、それだけでなく、本市としても課題を踏まえ、検討して行く。

Q4、八王子南 IC（圏央道）八王子南バイパスの建設が進んでいるが、これは救急搬送時における時間短縮に大変有用な道路であり、具体的に時間がどれ程短縮されるのか？また、早期整備について、本市から強い働きかけを要望する。

八王子南 IC（圏央道）八王子南バイパスが出来ることにより、八王子医療センターから府中の小児総合医療センターへの時間は 20 分程度、時間としては 4 割短縮されることとなる。八王子市としても、国や都に対して強く働きかけていく。

鈴木レオの日常活動



6月21日 市長タウンミーティング
横山事務所にて、98名の方が出席し、12名の方が質疑致しました。市長が一つ一つ熱心に答弁しているのが印象的でした



6月29日 消防団操法大会

4年に1度のポンプ車による操法大会が行われ、9分団より9部が出場しました。入賞は逃しましたが、日々の練習の成果を発揮されていました。

4年後は私が所属する3部が出場予定ですので、今回、練習に参加した経験を生かし、4年後はさらに頑張りたいと思います。



8月1日~3日 八王子祭り

3日間とも晴天に恵まれ、過去最高の91万6千人の方が来場されました。

7月~8月 地元町会夏祭り

7月から8月末にかけて各町会にて夏祭りが行われ、神輿や盆踊り参加すると共に、皆様の意見を身近で感じることが出来ました。



8月16日~17日 高宰神社例大祭

初めて神輿の渡輿が甲州街道にて行われ、散田のアンダーパスを潜りました。私も神輿を担ぎ、地元の祭りの重さを体全体で感じたお祭りでした。

歩道整備

安心して安全に通行出来るように、歩道の拡幅工事を行いました。

(写真は並木町、横山橋付近)



今後の活動予定

9月~10月 第3回市議会定例会議開催

11月~12月 第4回市議会定例会議開催

随時、西八王子駅にて活動報告(朝7時~8時)を行うと共に、地域での報告会を開催致します。

* 予定により、急遽変更する時もあります

発行：自由民主党東京都八王子市第二十八支部

住所：東京都八王子市並木町 36-5

TEL：042-663-9132

FAX：042-661-3688

HP：<http://leo-leo.jp>

E-mail：info@leo-leo.jp

